

第4期中期目標・中期計画の進捗状況に関する自己点検・評価について

令和6年7月23日
国立大学法人室蘭工業大学
評価分析室
法人評価・自己点検評価部門

令和4年度における中期目標・中期計画の進捗状況を自己点検し、以下の4段階により評価した。

Ⅳ	中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある
Ⅲ	中期目標の達成に向けて順調に進んでいる
Ⅱ	中期目標の達成に向けておおむね順調に進んでいる
Ⅰ	中期目標の達成のためには遅れている

<次頁以降の見方>

1. 令和〇年度実績・進捗状況欄について

当該年度に第4期中期目標・中期計画の達成に向けて取り組んだ実績や進捗状況について、(ア)から始まる五十音記号を用いて個別に記載している。

2. 評価指標欄について

当年度欄について網掛けにした上で、以下により記載している。

定量的な評価指標：目標値を記載し、経年の実績値を記載している。

定性的な評価指標：目標値を斜線とし、当年度欄に上記1により記載した実績や進捗状況のうち該当するものの記号を記載している。

3. 自己評価欄について

上記1の実績・進捗状況を踏まえ、中期目標・中期計画の進捗状況を4段階により自己評価した結果を記載している。

中期目標

【1】人材養成機能や研究成果を活用して、地域の産業（農林水産業、製造業、サービス産業等）の生産性向上や雇用の創出、文化の発展を牽引し、地域の課題解決のために、地方自治体や地域の産業界をリードする。①

中期計画

【1-1】本学が第3期中期目標期間において策定した「北海道 MONO づくりビジョン 2060」を基礎とし、地域創生への貢献、イノベーションの創出、エコシステムを利用した教育の実現のために、本学が中核となる大学・地方自治体・企業からなる地域創生総合化エコシステムを構築・活用し、社会からの投資を呼び込む。

令和4年度実績・進捗状況							自己評価
(ア) 「アシルートイタによる心と体に響く新しい食の価値共創拠点」が令和4年度の国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)地域共創分野育成型に採択され、北海道白糠町と共同研究を開始した。							IV
評価指標【1-1-①】 連携対象企業・自治体からの投資実績（共同研究、受託研究、学術指導）を第3期中期目標期間終了時比10%増加させる (単位：千円)							
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値	
222,047						135,061	

中期計画

【1-2】地域の課題解決のために、データサイエンス等の情報技術やものづくり技術を基盤として、魅力的な地域企業の増加に向けた地方自治体・産業界との連携を通して、地域の産業振興に寄与できる人材を輩出する取組を実施する。

令和4年度実績・進捗状況							自己評価
(ア) 数理DS・AI教育プログラムリテラシーレベルを継続して実施し、令和4年度は522人がプログラムを修了した。 (イ) 数理DS・AI教育プログラムの応用基礎レベル*1に対応したカリキュラムについて教育システム委員会で決定し、法定会議における審議を経て令和5年3月に学則を改正した。 (ウ) 令和5年3月にSTART UP2023学内ベンチャー育成塾プレイベントを開催した。講師としてエレベート株式会社代表取締役 大前和徳氏、パナソニック ITS 株式会社代表取締役 田辺孝由樹氏、同社室蘭開発室室長の佐藤慎吾氏を招き、13人の学生が参加した。							III
評価指標【1-2-①】 数理・データサイエンスプログラム関連科目を整備し、応用基礎レベル*1相当まで充実させる							
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値	
(イ)							
評価指標【1-2-②】 地域志向人材育成プログラム修了者数を第3期中期目標期間終了時比1.5倍に増加させる (単位：人)							
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値	
475						153	
※1 「応用基礎レベル」：文部科学省による「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」における応用基礎レベル（数理・データサイエンス・AIの知識を、様々な専門分野へ応用・活用することができる能力）を指している。							

中期目標

【2】学生の能力が社会でどのように評価されているのか、調査、分析、検証をした上で、教育課程、入学者選抜の改善に繋げる。特に入学者選抜に関しては、学生に求める意欲・能力を明確にした上で、高等学校等で育成した能力を多面的・総合的に評価する。⑤

中期計画

【2-1】学士課程における学修成果評価方針（アセスメントポリシー）を点検・見直すとともに、そのアセスメントポリシーに基づき、学士課程における学修成果を社会からの評価結果も含め多面的に評価し、評価結果が学生および社会から見えるように可視化する。また、学士課程教育の改善のため、得られた評価結果を大学のファカルティ・ディベロップメント（FD）活動へ反映させる。

令和4年度実績・進捗状況							自己評価
(ア) 遠隔授業に関するアンケート項目に着目して分析し、「授業が楽（時間的余裕、気を使わなくて済むなど）に受けられて良かった」という意見や「学生自身の弱点（集中できる、復習可能、緊張しないなど）を克服してくれる」といった肯定的な結果を得た。なお、社会への各種アンケートについては、令和6年度に、企業アンケートを実施する予定となっている。 (イ) アセスメントポリシーの点検・見直しに向け他大学の状況を調査し、令和5年3月開催企画戦略業務室において、策定や点検に向けた問題点の意見交換を行なった。 (ウ) 学修成果評価結果の可視化のため、ディプロマサプレメントの導入を決定し、令和5年3月卒業生に対して発行を行った。							III
評価指標【2-1-①】 学内及び社会への各種アンケート結果において社会からの肯定的な結果が得られていること							
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値	
(ア)						/	
評価指標【2-1-②】 カリキュラムポリシーとディプロマポリシーに対するアセスメントポリシーの整備及び継続的な検証							
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値	
(イ)						/	
評価指標【2-1-③】 学修成果評価結果の可視化及びそのFD活動への継続的な反映							
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値	
(ウ)						/	

中期計画

【2-2】継続的にアドミッションポリシー（AP）を検証し、必要に応じて見直す。特に、総合型選抜を中心に選抜方法を分析し、その結果を、選抜方法の改善に反映させる。

令和4年度実績・進捗状況							自己評価
(ア) アセスメントポリシーの制定に向け、制度等の整理を行った結果、見直し後のアドミッションポリシーを再検証することを視野に入れながら策定する必要があったことから、令和5年度に策定することとした。 (イ) 平成31年度に新設した理工学部の学生は令和5年3月に初めて本学を卒業するため、総合型選抜の分析や選抜方法・評価方法の改善は令和5年度から着手することとしている。							III
評価指標【2-2-①】 アセスメントポリシーに基づいたAPの整備及びその継続的な検証							

令和4年度 (ア)	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値

評価指標【2-2-②】
総合型選抜の継続的な分析及び分析に基づく選抜・評価方法の改善

令和4年度 (イ)	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値

中期目標
【3】 特定の専攻分野を通じて課題を設定して探究するという基本的な思考の枠組みを身に付けさせるとともに、視野を広げるために他分野の知見にも触れることで、幅広い教養も身に付けた人材を養成する。(学士課程) ⑥

中期計画															
【3-1】 多様な選抜方法で入学してきた学生に対して、学修の範囲を自身の専攻分野だけではなく関連の深い隣接領域へ広げる際に重要となる低学年次の理数基礎科目について、学生の能力に応じて、その理解を補うカスタムメイド型学力向上支援システムを導入・運用する。															
令和4年度実績・進捗状況	自己評価														
(ア) 教育推進支援センター教材開発・分析支援部門において、リメディアル教育の設計に着手した。対象科目は、「物理」と「数学」から開始し、授業担当グループが moodle での教材提供を前提として詳細設計を行った。その結果、カスタムメイド型学力向上支援システムの一つとして、令和5年度から「物理」のリメディアル教育をスタートすることとし、シニアプロフェッサー（本学定年退職教員）が担当することとした。	Ⅲ														
評価指標【3-1-①】 理数基礎科目の理解を補う教育を行うための制度としてのカスタムメイド型学力向上支援システムの導入															
<table border="1"> <tr> <td>令和4年度 (ア)</td> <td>令和5年度</td> <td>令和6年度</td> <td>令和7年度</td> <td>令和8年度</td> <td>令和9年度</td> <td>目標値</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		令和4年度 (ア)	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値							
令和4年度 (ア)		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値								
評価指標【3-1-②】 システム利用学生の理数基礎科目の単位取得率を、第3期中期目標期間終了時と比べ増加傾向にする (単位：%)															
<table border="1"> <tr> <td>令和4年度</td> <td>令和5年度</td> <td>令和6年度</td> <td>令和7年度</td> <td>令和8年度</td> <td>令和9年度</td> <td>目標値</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>79以上</td> </tr> </table>	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値	-						79以上	
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値									
-						79以上									
評価指標【3-1-③】 システム利用学生の学習時間を第3期中期目標期間終了時比10%増加させる (単位：時間/週)															
<table border="1"> <tr> <td>令和4年度</td> <td>令和5年度</td> <td>令和6年度</td> <td>令和7年度</td> <td>令和8年度</td> <td>令和9年度</td> <td>目標値</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>17.4</td> </tr> </table>	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値	-						17.4	
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値									
-						17.4									

中期計画	
【3-2】 教養教育を含む理工学部共通教育、基礎的、実践的な情報教育、視野を広げるための幅広い学科共通教育、課題探求能力を身につけるためのコース専門教育それぞれにおける科目群について教育の状況を調査分析し、教育効果を検証するために自己評価を行うとともに外部評価を受ける。	
令和4年度実績・進捗状況	自己評価
(ア) 平成31年4月に改組した理工学部の学科・コースの編制、入学定員及び教育方法等の見直しの有無、大学院進学率等を総合的に検証するため「学士課程における教育活動の	Ⅲ

<p>自己点検・自己評価実施要領」を作成し、自己点検・評価を開始した。また、毎年実施している授業評価アンケート等を分析し、結果を自己点検に活用する予定である。</p> <p>(イ) 機械システム工学コース及び土木工学コースの JABEE 継続審査を受審し、評価結果を受領した。また、令和4年11月に数理情報システムコースの外部評価委員による実地審査を実施し、外部評価結果を受領した。</p> <p>評価指標【3-2-①】 各種アンケートを活用し、総合的な評価結果が肯定的な傾向であること</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> <th>令和6年度</th> <th>令和7年度</th> <th>令和8年度</th> <th>令和9年度</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(ア)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>評価指標【3-2-②】自己評価・外部評価の計画的な実施</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> <th>令和6年度</th> <th>令和7年度</th> <th>令和8年度</th> <th>令和9年度</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(ア)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(イ)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値	(ア)							令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値	(ア)							(イ)						
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値																																			
(ア)																																									
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値																																			
(ア)																																									
(イ)																																									

中期計画																																											
<p>【3-3】学部の早期から特定の研究分野に興味を持たせ、研究活動に着手できる「学士修士一貫教育プログラム」の取組を基盤とし、大学院進学希望学生に対して、大学院でスムーズに研究活動ができるように、学部の早期から研究マインドを育成する取組を実施する。</p>																																											
令和4年度実績・進捗状況																																											
<p>(ア) 学士修士一貫教育プログラム学生の海外派遣活動の報告会を開催することとし、当該プログラム参加を希望する学部3年生との交流の場を設けることとした。</p> <p>(イ) 学部生に対し進学ガイダンスを実施する前に就職ガイダンスを実施していたこと及び4月から毎週のように就職ガイダンスを実施したことで参加学生数が分散・減少していることが明らかとなったため、令和5年度から、学部3年の前期は主に進学ガイダンス及びインターンシップ対策とし、後期から就活に向けたガイダンスを実施することとした。</p> <p>(ウ) 大学院進学説明会を5回開催し、延べ304名が参加した。</p>																																											
自己評価																																											
<p>評価指標【3-3-①】 学部の早期から研究マインドが育成される取組の実施と継続的な検証</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> <th>令和6年度</th> <th>令和7年度</th> <th>令和8年度</th> <th>令和9年度</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(ア)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(イ)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(ウ)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>評価指標【3-3-②】 大学院博士前期課程進学者を第3期中期目標期間終了時までと比べて増加させる (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> <th>令和6年度</th> <th>令和7年度</th> <th>令和8年度</th> <th>令和9年度</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>264</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>222</td> </tr> </tbody> </table> <p>※各年度の実績値は、選抜年度ではなく入学年度の実績である。</p>		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値	(ア)							(イ)							(ウ)							令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値	264						222
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値																																					
(ア)																																											
(イ)																																											
(ウ)																																											
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値																																					
264						222																																					
III																																											

中期目標
<p>【4】研究者養成の第一段階として必要な研究能力を備えた人材を養成する。高度の専門的な職業を担う人材を育成する課程においては、産業界等の社会で必要とされる実践的な能力を備えた人材を養成する。(修士課程) ⑦</p>

中期計画
<p>【4-1】理工学部改組との連続性を明確にし、大学院博士前期課程各専攻のコースを再編する。そ</p>

の際、大学院博士前期課程の教育課程を、研究能力の根底を支える系統的なコースワーク科目と具体的なテーマを設定した演習系科目で構成する。また、研究能力が、大学院博士前期課程の学生個人にどれだけ備わったかを可視化するために、新たに研究能力ポートフォリオ（仮称）を整備し、運用する。

令和4年度実績・進捗状況							自己評価
(ア) 令和5年3月に大学院工学研究科規則を改正し、令和5年4月から大学院博士前期課程各専攻のコースを再編することとした。 (イ) 企画戦略業務室教育チームにて、キャンパススクエアをベースに研究能力ポートフォリオのサンプルを作成し、必要要件の確認を行った。							III
評価指標【4-1-①】 令和5年度までに大学院博士前期課程のコースを再編し、その教育課程表、コース専門科目の系統図及び科目ナンバリング表を作成・公開する							
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値	
(ア)						/	
評価指標【4-1-②】 令和6年度までに大学院博士前期課程学生の研究能力ポートフォリオ（仮称）を整備する							
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値	
(イ)						/	
評価指標【4-1-③】 研究能力ポートフォリオ（仮称）への研究活動登録率を上昇させる							
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値	
-						/	

中期目標

【5】深い専門性の涵養や、異なる分野の研究者との協働等を通じて、研究者としての幅広い素養を身に付けさせるとともに、独立した研究者として自らの意思で研究を遂行できる能力を育成することで、アカデミアのみならず産業界等、社会の多様な方面で求められ、活躍できる人材を養成する。（博士課程）⑧

中期計画

【5-1】「イノベーション博士人材」育成のために、大学院博士後期課程の学生が在学中から産業界を意識しながら研究活動を実施することができるように、大学院博士後期課程カリキュラムの実施方法を改善する。

令和4年度実績・進捗状況							自己評価
(ア) 博士後期課程の次世代研究者教育プログラム学生に対して、ドクコン（博士後期課程学生と企業との交流イベント）を必修のプログラムとすることを決定した。令和4年度のドクコンは令和4年8月9日に開催し、6社が参加し、21名の学生が出席した。そのうち次世代研究者教育プログラム学生は10名であった。なお、次年度以降にドクコンの実施内容等の見直しを図り、参加企業へのアンケートを実施する予定である。							III
評価指標【5-1-①】 国内企業、国立研究開発法人、海外研究機関等における長期インターンシップや産業界との交流事業を実施し、その事後アンケート等において、対象の大学院博士後期課程学生に対する産業界等からの肯定的な評価結果が得られること							
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値	
(ア)						/	

中期計画							
【5-2】新たに令和5年度までに、世界トップレベルの教育実践を目的としたコンピュータ科学人材育成センター（仮称）を設立し、コンピュータ科学分野で高い研究開発能力を有し、産業界とアカデミアの双方で活躍できる能力を培うための取組を推進する。							
令和4年度実績・進捗状況						自己評価	
(ア) 令和5年度にコンピュータ科学センター（仮称）を設置するため、設置準備室会議を設置し、令和5年3月にコンピュータ科学センター規則を制定した。 (イ) 令和5年度に開催予定のセンター設立記念シンポジウムに向け、招へいする研究者等の選定を進めた。						III	
評価指標【5-2-①】 令和5年度までのコンピュータ科学人材育成センター（仮称）設立							
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度		目標値
(ア)							
評価指標【5-2-②】 海外や産業界等からの研究者招聘や国際ワークショップの開催を継続的に実施する							
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値	
(イ)							
評価指標【5-2-③】 センター所属教員の指導学生一人当たりの質の高い発表論文※2 数を第3期中期目標期間終了時比10%増加させるとともに、センター所属教員のTOP10%論文率が10%以上であること (単位：報/人（上段）、%（下段）)							
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値	
-						1.82	
-						10	
※2 「質の高い発表論文」：Elsevier社が提供する文献データベース Scopus における Q1、Q2 レベルの論文を指している。							

中期目標
【6】学生の海外派遣の拡大や、優秀な留学生の獲得と卒業・修了後のネットワーク化、海外の大学と連携した国際的な教育プログラムの提供等により、異なる価値観に触れ、国際感覚を持った人材を養成する。⑫

中期計画	
【6-1】異なる価値観に触れ、国際感覚を持った人材を養成するために、海外協定校等と協働した教育プログラムの展開など学生の海外派遣を充実させる。優秀な留学生の獲得と卒業・修了後のネットワーク化のために、海外在住OBを活用した海外同窓会体制を新たに整備する。	
令和4年度実績・進捗状況	自己評価
(ア) 学部及び大学院のカリキュラムを改正し、令和5年度入学生から、日本国外における多様な学修活動について単位認定が可能となるよう「海外留学」「国際活動」「国際理解」の科目を整備した。 (イ) キャリア・サポート・センターにおいて、IAESTE を利用した海外インターンシップを紹介する説明会を10月にオンラインで開催し、本学の学生4名が令和5年度の研修生に応募し全員面接に合格した。 (ウ) 海外同窓会体制の整備のため、中国やマレーシアを訪問し、拠点整備に向けた打合せを行った。	III
評価指標【6-1-①】 日本人学生派遣数を第3期中期目標期間終了時比1.2倍とする (単位：人)	

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値
16						61

評価指標【6-1-②】
海外同窓会体制として2拠点を整備する

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値
0						2

中期目標
【7】様々なバックグラウンドを有する人材との交流により学生の視野や思考を広げるため、性別や国籍、年齢や障害の有無等の観点から学生の多様性を高めるとともに、学生が安心して学べる環境を提供する。⑬

中期計画															
【7-1】多様な学生を受け入れて学生に自身の視野や思考を広げる教育環境を提供するため、女子学生や社会人学生、留学生、障害者を受け入れる環境および交流させる環境を整備する。															
令和4年度実績・進捗状況	自己評価														
<p>(ア) 学生意向の把握と学生意向を踏まえた計画的な環境整備のため、アンケート実施にかかる検討を行った。</p> <p>(イ) 男女共同参画推進室において、令和4年10月に「キャリア形成のためのランチタイムセミナー」、令和4年11月に「教職員のためのダイバーシティセミナー2022」を開催した。また、令和4年9月に「ダイバーシティ通信第16号」発行を発行し、学内外に発信した。</p> <p>(ウ) 社会人を対象とした公開講座を再構築し、新たに社会人研修プログラムを創設し、全課程を修了した受講生10名に修了証を発行した。</p> <p>(エ) 令和4年12月に、「次世代リーダー育成塾 in 室蘭工業大学」を室蘭市と連携して実施し、本学教員4名を含む41名が受講した。</p>	III														
<p>評価指標【7-1-①】 学生意向の把握と学生意向を踏まえた計画的な環境の整備</p> <table border="1"> <tr> <td>令和4年度</td> <td>令和5年度</td> <td>令和6年度</td> <td>令和7年度</td> <td>令和8年度</td> <td>令和9年度</td> <td>目標値</td> </tr> <tr> <td>(ア)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値	(ア)							
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値									
(ア)															
<p>評価指標【7-1-②】 様々なバックグラウンドを有する人材との交流を促す講演会等を1回/年以上開催する</p> <table border="1"> <tr> <td>令和4年度</td> <td>令和5年度</td> <td>令和6年度</td> <td>令和7年度</td> <td>令和8年度</td> <td>令和9年度</td> <td>目標値</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>年1回以上</td> </tr> </table>	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値	3						年1回以上	
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値									
3						年1回以上									

中期計画	
【7-2】性別や国籍、年齢、障害の有無等が異なる多様な学生を含め、全ての学生が勉学に専念できる環境を整えるために、大学生活支援、学習支援、就職活動支援等をWebの活用により可視化(学生支援Webマップ)し、様々な支援の利便性を向上させる。	
令和4年度実績・進捗状況	自己評価
<p>(ア) 各所に散在するページ等をまとめたポータルサイトを構築すべく、教育チームにて検討を開始、令和5年度中に整備することとした。</p> <p>(イ) 学生支援の利便性向上の一つとして、学生からの進路相談の申込において、紙の申込票を廃止することとし、令和5年度からEメールで受け付けを開始することとした。</p>	III
<p>評価指標【7-2-①】 大学生活支援、学習支援、就職活動支援等のWebマップを令和6年度までに実装する</p>	

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値
(ア)						
(イ)						

評価指標【7-2-②】
Webマップに関する各種アンケートの実施及びアンケート結果に基づくWebマップの継続的な改善

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値
-						

中期目標
【8】真理の探究、基本原理の解明や新たな発見を目指した基礎研究と個々の研究者の内在的動機に基づいて行われる学術研究の卓越性と多様性を強化する。併せて、時代の変化に依らず、継承・発展すべき学問分野に対して必要な資源を確保する。⑭

中期計画	自己評価																																			
<p>【8-1】従来型の学問分野を基礎とする教員研究組織ユニットについて、研究計画と構成員の研究業績の評価によって各ユニットの業績等を明らかにし、その評価結果を次年度に配分する研究費に反映させ、各ユニットの基盤研究を充実させる。</p> <p>令和4年度実績・進捗状況</p> <p>(ア) 令和4年6月に研究ユニット評価ヒアリングを実施し、評価結果に基づき、59,794千円を予算配分した。</p> <p>(イ) 第4期の中期目標・中期計画の研究に関する部分のスタートダッシュを図るため、令和2年度から実施している未来創造推進経費の内容を一新し、第4期の中期目標・中期計画の達成に貢献する研究の実施を支援することとして、令和4年6月にヒアリングを実施し、新規課題11件に44,051千円を予算配分した。</p> <p>評価指標【8-1-①】 教員研究組織の評価と評価結果に基づく研究費の配分を継続的に実施する</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> <th>令和6年度</th> <th>令和7年度</th> <th>令和8年度</th> <th>令和9年度</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(ア)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(イ)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>評価指標【8-1-②】 教員一人当たり査読付き論文数の増加傾向</p> <p style="text-align: right;">(単位：報/人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> <th>令和6年度</th> <th>令和7年度</th> <th>令和8年度</th> <th>令和9年度</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2.00</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1.84</td> </tr> </tbody> </table>	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値	(ア)							(イ)							令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値	2.00						1.84	III
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値																														
(ア)																																				
(イ)																																				
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値																														
2.00						1.84																														

中期計画	自己評価
<p>【8-2】基礎研究と個々の研究者の内在的動機に基づいて行われる学術研究の卓越性と多様性を強化するために、教員の国際的な活動を支援する制度を充実させるなどして、国際共同研究を強化する。</p> <p>令和4年度実績・進捗状況</p> <p>(ア) 令和5年2月開催の役員会において、令和5年度から教員評価システムにクロスアポイントメント適用者に対する評価項目、国際共著論文に対する評価項目、論文の質を評価する項目など改善事項を反映させることを決定した。</p> <p>(イ) 国際共同研究プロジェクトの申請や国際共同研究立ち上げのためのサポート制度の導入について検討を開始した。</p>	III

評価指標【8-2-①】 国際共著論文数の増加傾向 <div style="text-align: right;">(単位：報/人)</div>						
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値
0.57						0.51
評価指標【8-2-②】 国際共著論文のFWCI(Field Weighted Citation Impact)値1.0以上を維持する						
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値
1.98						1.00以上

中期目標
【9】 地域から地球規模に至る社会課題を解決し、より良い社会の実現に寄与するため、研究により得られた科学的理論や基礎的知見の現実社会での実践に向けた研究開発を進め、社会変革につながるイノベーションの創出を目指す。⑮

中期計画
【9-1】 「北海道 MONO づくりビジョン 2060」で掲げた①「産業」の価値、②「地域」・「生活」の価値等を向上させる持続可能で豊かな社会を実現するための科学技術開発を推進するクリエイティブコラボレーションセンターを充実させる。

令和4年度実績・進捗状況	自己評価														
<p>(ア) 令和5年3月に、クリエイティブコラボレーションセンターワークショップを開催した。ワークショップでは、センター外のメンバーも含む23演題の発表がなされ、活発な議論が行われた。あわせて、COI-NEXT アシレートイタ拠点ワークショップ及びNICTの成果報告会も共催し、学内外から多くの者が参加した。</p> <p>(イ) 未来創造推進経費から発展したカーボンポジティブラボを新たなラボとして認定した。</p>	III														
<p>評価指標【9-1-①】 クリエイティブコラボレーションセンターの教員一人あたりの査読付き論文数と外部資金獲得額に基づく総合指標値^{*3}(本学提案)の増加傾向</p> <table border="1"> <tr> <td>令和4年度</td> <td>令和5年度</td> <td>令和6年度</td> <td>令和7年度</td> <td>令和8年度</td> <td>令和9年度</td> <td>目標値</td> </tr> <tr> <td>25.5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>21.7超</td> </tr> </table>		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値	25.5						21.7超
令和4年度		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値								
25.5						21.7超									
<p>^{*3} 「総合指標値」：本学のイノベーションステージを技術成熟度レベル2「Research to Prove Feasibility」からレベル4「Technology Development」と想定し、その達成度は総合的な研究活動(査読付き論文数、外部資金獲得額(受託・共同研究費等))を対象として評価することとした。総合指標は、本学の定量的総合評価による教員評価システムの実績を活かし、前述の研究活動毎に重み係数を定めている。</p>															

中期目標
【10】 国内外の大学や研究所、産業界等との組織的な連携や個々の大学の枠を越えた共同利用・共同研究、教育関係共同利用等を推進することにより、自らが有する教育研究インフラの高度化や、単独の大学では有し得ない人的・物的資源の共有・融合による機能の強化・拡張を図る。⑯

中期計画	
<p>【10-1】 日本の宇宙・航空機の学術研究コミュニティの中核として機能し、高度な宇宙・航空機人材の育成を推進することにより、基盤技術の研究開発(超音速有翼機研究)の継続に加え、日本の大学で本学のみが有する白老実験施設(Linear Hyper-G環境実験施設、航空宇宙機エンジン実験施設、飛行試験設備)を共同利用した日本国内大学や産業界との受託・共同研究を推進する。</p>	
令和4年度実績・進捗状況	自己評価

<p>(ア) 学内研究としては過去最多となる4度のデルタ翼機飛行試験を実施した。また、過去最長となる60秒のエンジン燃焼実験を行い、システムインテグレーション技術の確立において大きな進捗を得た。</p> <p>(イ) 白老実験施設のロケットスレッドの両方向滑走については令和4年度に施設整備を実施し試運転を実施できる状態となった。また、名古屋大学、早稲田大学＝テクノバ社(三者契約)、キャノン電子それぞれと白老実験場での共同研究を実施した。</p> <p>(ウ) 令和5年1月にインターステラテクノロジズ株式会社と包括連携協定を締結した。</p> <p>評価指標【10-1-①】 航空宇宙機システム研究センターの日本国内大学、企業との受託・共同研究数を年間1.75件/人以上とする</p> <p style="text-align: right;">(単位：件/人)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> <th>令和6年度</th> <th>令和7年度</th> <th>令和8年度</th> <th>令和9年度</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">11.00</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">1.75</td> </tr> </tbody> </table>	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値	11.00						1.75	IV
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値									
11.00						1.75									

中期計画																																				
【10-2】第3期中期目標期間において、国際拠点化を推進した希土類材料研究センターの実績を地域への貢献に活かすために、世界的な希土類の共同研究体制を強化する。																																				
令和4年度実績・進捗状況	自己評価																																			
<p>(ア) 環境省が公募した「令和4年度既存のインフラを活用した水素供給低コスト化に向けたモデル構築・実証事業」について、室蘭ガスを代表企業として室蘭市や大成建設などと産学官連携の共同事業体を構築した。</p> <p>(イ) 北海道胆振総合振興局のTEAM「ゼロカーボンいぶり」に参画した。当該プロジェクトは室蘭市を実証フィールドとし、北海道全体と脱炭素への取り組むコンソーシアムとして連携を介した。関連して、本学職員宿舎に水素燃料電池を設置し、水素を燃料として電気と温水を供給し実証実験ができるよう整備した。</p> <p>(ウ) 現行の「環境調和材料教育プログラム」を改正し、実際に研究現場で必要となる実験技術・解析手法を修得できる新設科目「希土類材料工学演習」を設定し、令和5年度より新たな教育プログラム「希土類材料工学教育プログラム」を開設することとした。</p> <p>(エ) 学生海外派遣数は、コロナ禍および国際情勢を鑑み派遣を控えていたことにより、0名となっている。</p> <p>評価指標【10-2-①】 希土類材料研究センターの国際共著論文比率及び教員一人あたりの論文数を第3期中期目標期間終了時比10%増加させる</p> <p style="text-align: right;">(単位：% (上段)、報/人 (下段))</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> <th>令和6年度</th> <th>令和7年度</th> <th>令和8年度</th> <th>令和9年度</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">40.9</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">38.3</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1.83</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">1.66</td> </tr> </tbody> </table> <p>評価指標【10-2-②】 学生海外派遣数を第3期中期目標期間終了時比10%増加させる</p> <p style="text-align: right;">(単位：人)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> <th>令和6年度</th> <th>令和7年度</th> <th>令和8年度</th> <th>令和9年度</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">0</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">17</td> </tr> </tbody> </table>	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値	40.9						38.3	1.83						1.66	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値	0						17	III
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値																														
40.9						38.3																														
1.83						1.66																														
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値																														
0						17																														

中期目標

【11】内部統制機能を実質化させるための措置や外部の知見を法人経営に生かすための仕組みの構築、学内外の専門的知見を有する者の法人経営への参画の推進等により、学長のリーダーシップのもとで、強靱なガバナンス体制を構築する。②①

中期計画

【11-1】本学のガバナンス体制をさらに強化するために、教職員のコンプライアンスに対する意識を向上させる研修等を継続的に実施する。また、ガバナンスコードへの適合状況等の確認及び監査等を実施し、実施結果等を本学の機能強化に繋げることで、法令等に基づく業務の適正な運営を確保する。

令和4年度実績・進捗状況							自己評価
(ア) 教職員のコンプライアンスに対する意識を向上させるため、令和4年6月に情報セキュリティ定期講習を実施したほか、令和5年2月に個人情報保護研修を実施した。 (イ) ガバナンスコードへの適合状況等を確認し、令和4年7月に経営協議会、令和4年9月に役員会において審議の後、令和4年10月に公表した。また、監事からの提言を踏まえ、人事計画の策定や内部統制に関する規則を制定し、大学ホームページにて公表した。 (ウ) 会計監査の他、保有個人情報の管理や法人文書の管理に関する監査を行った。							III
評価指標【11-1-①】 ガバナンスコードへの適合状況等の確認、監査結果等の反映、研修等の実施及びこれらの学内外への公表を継続的に行う							
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値	
(ア)							III
(イ)							
(ウ)							

中期計画

【11-2】大学の経営機能を強化するため、顧問制度等を活用し、学内外の専門的知見を有する者が参画した法人経営体制を整備・運用する。

令和4年度実績・進捗状況							自己評価
(ア) 学長補佐に学長特命事項を与え、進捗状況を共有する学長特命連絡会を開催した。令和4年度は、計11回開催し、「大学院志願者増の施策」「休退学対策」「地域教育・連携」「卒業後の進路（就職・進学）」に関して議論を行った。							III
評価指標【11-2-①】 顧問制度等を活用した経営改善プランを策定し、当該プランに基づく法人経営を行う							
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値	
(ア)							III

中期目標

【12】大学の機能を最大限発揮するための基盤となる施設及び設備について、保有資産を最大限活用するとともに、全学的なマネジメントによる戦略的な整備・共用を進め、地域・社会・世界に一層貢献していくための機能強化を図る。②②

中期計画

【12-1】施設 IR(Institutional Research)によるエビデンスをベースとした分析に基づき、教育研究に係る施設の有効活用を推進し、共創の拠点を整備する。また、低炭素社会の実現に向けて環境保全対策や省エネルギー対策等を実施する。

令和4年度実績・進捗状況							自己
--------------	--	--	--	--	--	--	----

							評価																																								
<p>(ア) 令和 4 年度に改修工事が終了した地方創生研究開発センターに、アライアンスラボのスペースを確保し共創の場として利用する予定であり、共創の場を 200 m²確保した。</p> <p>(イ) 平成 21 年 3 月に取得した「北海道環境マネジメントシステム (HES)」ステップ 2 (IS014001 の規格を基本としている) を維持するため本学が制定した「HES 環境マネジメントマニュアル」に従って環境改善活動を行った。</p> <p>(ウ) 令和 5 年 2 月にマニュアルの実施状況の自主点検を行った後、自己評価委員会を開催した結果、令和 4 年度に実施した環境負荷低減に関する講演会について良い評価を得た。</p> <p>(エ) 令和 5 年 3 月に定期審査を受審し、認証・登録の継続に問題がないことを判定委員会に報告し、HES ステップ 2 を維持した。</p> <p>評価指標【12-1-①】 施設等の利用状況を把握・分析し、共創拠点となる施設・設備の割合を第 3 期中期目標期間終了時比 10%増加させる</p> <p style="text-align: right;">(単位: m²)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>令和 4 年度</th> <th>令和 5 年度</th> <th>令和 6 年度</th> <th>令和 7 年度</th> <th>令和 8 年度</th> <th>令和 9 年度</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>254</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>280</td> </tr> </tbody> </table> <p>評価指標【12-1-②】 北海道環境マネジメントシステムスタンダード (HES) ※4 ステップ 2 を維持する</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>令和 4 年度</th> <th>令和 5 年度</th> <th>令和 6 年度</th> <th>令和 7 年度</th> <th>令和 8 年度</th> <th>令和 9 年度</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(イ)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td rowspan="3" style="text-align: center;">/</td> </tr> <tr> <td>(ウ)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(エ)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※4 「北海道環境マネジメントシステムスタンダード (HES)」: 組織の環境マネジメントシステムに関する国際規格である IS014001 を基本とし、多くの組織が容易に取り組める環境マネジメントシステムとして、北海道商工会議所連合会が中心となり、経済団体、環境関係団体、行政機関 (北海道・札幌市) の協力を得て構築した、環境保全活動と経営の安定を支援する環境規格。2 段階で構成されており、ステップ 1 が環境問題に取り組み始めた段階 (PDCA を回す最小限の範囲で IS014001 を基本に要求事項を簡素化したもの) であり、ステップ 2 は環境問題への高度な取組の段階 (要求事項は IS014001 とほぼ同様) と位置付けられている。</p>							令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	目標値	254						280	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	目標値	(イ)						/	(ウ)						(エ)						III
令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	目標値																																									
254						280																																									
令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	目標値																																									
(イ)						/																																									
(ウ)																																															
(エ)																																															

中期計画																					
<p>【12-2】地域の施設・設備の高度化の好循環を実現するため、地域、自治体、企業等が施設・設備等を有効活用できる体制を整備・運用するとともに、地域・大学の人的・物的資源の共有・融合による共同研究や委託研究等を充実させる。</p>																					
令和 4 年度実績・進捗状況						自己評価															
<p>(ア) 「アシルートイタによる心と体に響く新しい食の価値共創拠点」が令和 4 年度の国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) の共創の場形成支援プログラム (COI-NEXT) 地域共創分野育成型に採択され、北海道白糠町と共同研究を開始した。</p> <p>評価指標【12-2-①】 連携対象企業・自治体からの投資実績 (共同研究、受託研究、学術指導) を第 3 期中期目標期間終了時比 10%増加させる (1-1-①再掲)</p> <p style="text-align: right;">(単位: 千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>令和 4 年度</th> <th>令和 5 年度</th> <th>令和 6 年度</th> <th>令和 7 年度</th> <th>令和 8 年度</th> <th>令和 9 年度</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>222,047</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>135,061</td> </tr> </tbody> </table>							令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	目標値	222,047						135,061	III
令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	目標値															
222,047						135,061															

中期目標

【13】 公的資金のほか、寄附金や産業界からの資金等の受入れを進めるとともに、適切なリスク管理のもとでの効率的な資産運用や、保有資産の積極的な活用、研究成果の活用促進のための出資等を通じて、財源の多元化を進め、安定的な財務基盤の確立を目指す。併せて、目指す機能強化の方向性を見据え、その機能を最大限発揮するため、学内の資源配分の最適化を進める。⑳

中期計画						
【13-1】 ビジョンや IR データ等と連動した中期財政計画（10 年）を新たに策定するとともに、中期財政計画に基づき、財源の多元化及び財務基盤の安定化に資する施策の実施と学長裁量経費などの重点投資を充実させる。						
令和 4 年度実績・進捗状況						自己評価
(ア) 令和 4 年度に中期財政計画を策定すべく財政シミュレーションに着手した結果、既存の収入、支出状況の把握に加え、近年の物価高騰や光熱費増加の対応及び施設設備の更新に係る減価償却引当特定資産への対応といった課題が生じたため、令和 5 年度中に中期財政計画を策定することとした。						II
評価指標【13-1-①】 令和 4 年度までに新たな中期財政計画（10 年）を策定し、財源の多元化及び財務基盤の安定化に資する施策並びに重点投資を特定し、計画的に実行する						
令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	
(ア)						

中期目標

【14】 外部の意見を取り入れつつ、客観的なデータに基づいて、自己点検・評価の結果を可視化するとともに、それを用いたエビデンスベースの法人経営を実現する。併せて、経営方針や計画、その進捗状況、自己点検・評価の結果等に留まらず、教育研究の成果と社会発展への貢献等を含めて、ステークホルダーに積極的に情報発信を行うとともに、双方向の対話を通じて法人経営に対する理解・支持を獲得する。㉑

中期計画						
【14-1】 エビデンスベースの法人経営を実現するために、学内情報資産の IT 化(デジタル化)を推進し、IR データの蓄積・分析プラットフォームを構築する。これらのデータと、外部有識者などの専門的知見を活用し、客観性と外部性を確保した自己点検・評価マネジメントを実施する。						
令和 4 年度実績・進捗状況						自己評価
(ア) 統合データ基盤（IR データの蓄積・分析プラットフォーム）の環境を構築した。 (イ) 評価分析室を 7 回開催して中期計画の進捗状況を点検し、令和 5 年 1 月の企画戦略会議において審議した。						III
評価指標【14-1-①】 IR データの蓄積・分析プラットフォームを構築し、エビデンスに基づく自己点検・評価を継続的に実施する						
令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	
(ア)						
(イ)						

中期計画						
【14-2】 ステークホルダーの法人経営に対する理解・支持を獲得するために、多様なステークホルダーに対して、多様な広報媒体を活用し、積極的に情報発信を行うとともに、ステークホルダーとの意見交換の機会を設定する。						
令和 4 年度実績・進捗状況						自己評価

<p>(ア) 本学学生が広報スタッフを担う制度を導入し、Twitter やInstagram、YouTube をはじめとした SNS を活用した情報発信を行った。</p> <p>(イ) 報道機関を対象とした記者懇談会を令和 4 年 7 月及び令和 4 年 12 月に実施した。</p> <p>(ウ) 学生の保護者を対象とした地区別懇談会を令和 4 年 11 月にオンラインで実施した。</p> <p>(エ) 公募による一般市民を含む、室蘭近隣の自治体、教育界等からの委員 10 名を招いた市民懇談会を令和 5 年 2 月に実施した。</p> <p>評価指標【14-2-①】 多様な広報媒体を活用した積極的な情報発信</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>令和 4 年度</th> <th>令和 5 年度</th> <th>令和 6 年度</th> <th>令和 7 年度</th> <th>令和 8 年度</th> <th>令和 9 年度</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(ア)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">/</td> </tr> </tbody> </table> <p>評価指標【14-2-②】 相互理解を目的としたステークホルダーとの定期的な意見交換</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>令和 4 年度</th> <th>令和 5 年度</th> <th>令和 6 年度</th> <th>令和 7 年度</th> <th>令和 8 年度</th> <th>令和 9 年度</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(イ)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">/</td> </tr> <tr> <td>(ウ)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">/</td> </tr> <tr> <td>(エ)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">/</td> </tr> </tbody> </table>	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	目標値	(ア)						/	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	目標値	(イ)						/	(ウ)						/	(エ)						/	III
令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	目標値																																					
(ア)						/																																					
令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	目標値																																					
(イ)						/																																					
(ウ)						/																																					
(エ)						/																																					

中期目標

【15】 AI・RPA (Robotic Process Automation) をはじめとしたデジタル技術の活用や、マイナンバーカードの活用等により、業務全般の継続性の確保と併せて、機能を高度化するとともに、事務システムの効率化や情報セキュリティ確保の観点を含め、必要な業務運営体制を整備し、デジタル・キャンパスを推進する。⑳

中期計画

【15-1】 第 3 期中期目標期間にデジタル技術を活用した業務の効率化として導入した RPA を発展させ、更なる業務の効率化及びデータ分析に基づく業務運営体制の強化を目指した、迅速かつ柔軟性のあるデジタル・キャンパスを推進する。そのために、セキュアな情報基盤を整備し、デジタル・キャンパスを推進する組織を設置・運用する。

令和 4 年度実績・進捗状況						自己評価														
<p>(ア) 迅速かつ柔軟性のあるデジタル・キャンパスを推進するため、デジタル・キャンパス推進基本方針を策定するとともに、デジタル・キャンパス推進室を設置した。</p> <p>(イ) RPA の普及拡大に向けて、RPA ハンズオンセミナー及び BPR 推進セミナーを企画し、令和 4 年 5 月及び 12 月に実施した。</p> <p>(ウ) 日本人新入生向け、外国人留学生新入生向けチャットボットを 4 月から運用開始したほか、寄附金や検定料等のクレジットカード払いへの対応や、統合データ基盤 (IR データの蓄積・分析プラットフォーム) 環境の構築を行った。</p> <p>(エ) 令和 5 年 3 月に国際認証「情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS)」及び「事業継続マネジメントシステム (BCMS)」のサーベイランス審査を受審し、不適合事項は 0 件だった。</p>						III														
<p>評価指標【15-1-①】 チャットボットをはじめとした業務効率化関連事業数を新たに 3 件以上導入する (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>令和 4 年度</th> <th>令和 5 年度</th> <th>令和 6 年度</th> <th>令和 7 年度</th> <th>令和 8 年度</th> <th>令和 9 年度</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>3 以上</td> </tr> </tbody> </table>						令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	目標値	5						3 以上	
令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	目標値														
5						3 以上														
<p>評価指標【15-1-②】 セキュアな情報基盤を維持する</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>令和 4 年度</th> <th>令和 5 年度</th> <th>令和 6 年度</th> <th>令和 7 年度</th> <th>令和 8 年度</th> <th>令和 9 年度</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(エ)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">/</td> </tr> </tbody> </table>						令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	目標値	(エ)						/	
令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	目標値														
(エ)						/														